

議会報告会実施報告書（要旨）

開催日時	平成27年11月12日（木） 18時00分～19時35分		
開催場所	ゆとろ	出席者	12名
出席議員	後藤議長・市川議員・稲村議員・山崎議員・鈴木議員		

◎後藤議長開会

◎後藤議長挨拶

○（後藤議長） 今日には本当にお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。今回で6回目の議会報告会になりますけれども、今回からは、今までは全員で参加させていただいていましたが、なるべく意見交換をし易い雰囲気議会としても作りたいとの事もありまして、15名の議員を3班に分けて、それぞれ運営をし意見交換をさせていただくという事で、今日は5名で参加させていただいております。今年に入りまして、8月の臨時会、9月の定例会の報告を含めまして議会改革につきましても報告させていただき、その後に、皆さんとのフリートークと言うか懇談を通じて、町政全般に渡る要望ですとか意見を伺いと思えます。その他については、議会と言う性格上、答えられる範囲は限られると思えますが、町長部局の方に伝えるですとか、そういう形で持ち帰ると言う形を取らせていただきたいと思います。数年前から議会改革に取り組ませていただいておりますが、私どもが皆さんの意見を直接聞かせていただき、それを町政に反映させていくとの目的で、今回も報告会を開催させていただいているので、その趣旨を踏まえていただいて、色々ご発言をいただければと思っています。また前回、報告の仕方について、皆さんに分かりやすい説明が出来ていないとの、ご指摘をいただきましたので、その事についても反省をさせていただきまして、あの時の次の報告会の時点で、もう少し改善させてもらいましたが、今日のなるべく皆様に分かりやすい形での報告をさせていただき、色々意見を賜りたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

◎各定例会・議会改革の取り組みについて報告

稲村議員、山崎議員、鈴木議員

○（町民） 町の林業産業について、何年も意見書が提出しているが、当別町にどのようにプラスになっているのだろうか。当別町の面積の6割は山林であるので、町有林や民有林について、新植や保育保護の事業を計画的、年次的に行っていく必要があって、今後において長期的な計画を立てていかないと、いま働いている人達、林業従事者がだんだん少なくなっていくと思う。

○（議会） 当別町の議会の中にも、林業活性化議連という会に議員全員が入っており、林産業の活性化というのは当別町の山林面積からしても大変重要な部分であると思っている。特に総合戦略を国に先月末に提出したけれど、今のご指摘のようにこれ

から人口が減少していく中で、雇用を如何に図っていくかは大変重要なファクターだと思っている。施策の一つとして自然エネルギーをどう活用していくか、間伐材を活用した加工品をどう作っていくかにより、そういった事で職場を作っていく雇用していくと言う事は大変重要な事だと理解している。今回の意見書の採択であるが、国の方に森林の確保と森林から得られる色々な資源を、その地域で活用して色々な人口減少対策、エネルギー対策とかに活用していく仕組みを早期に行ってほしいとの事を含んで要望をしている。特に町の事業施策の具体的な事には、森林組合さんなどの関係もあり、議会が答える事ではないので、町の方へその旨を改めて伝えていく事としたい。

◎町政・地域の抱える問題について

○（町民） 前回の町政懇談会の時に参加して、道の駅について意見を言ったのだが、道の駅のスケジュールがどうなっているのか、町と農協の関係、農家の関係がどうなっているのか、さっぱり分からない。町の税金が投入されるので、どういう経過でどのようなスケジュールになるかを詳しく広報してほしい。自分も土木の経験があり、町の懇談会では地盤の話をしたのだが、1年間で何とか地盤を安定させて行うとの説明があり、大型土嚢の高さを変えれば幾らでも地盤安定が出来るとの説明もされたが、限界を超えた時には地盤の破壊を起こす事になりそれは間違いである。道の駅は町の起爆剤として必要との説明をしているので、皆さんの知恵をそこにどうやって反映させるのかを念頭に置くのであれば、もっと情報を公開すべきだと思う。

○（議会） 今、心配されている安定地盤を作るために、町政報告会での説明した部分での心配だが、あまり負荷を掛ければ地盤が崩壊する事は部局の方では十分知っているのでは、おそらくは1年転圧するのか、8ヶ月転圧するのかは、土の量を変えれば出来るとの説明だったと思うが、いま心配いただいた事は部局には伝えていきたい。経営主体の関係についても、いま協議をしており、どういう形が良いのか、農協さん、商工会との連携をどう取っていくのかと言う事も協議は進んでいると思う。基本的には今月末に、実施設計がいま委託した部分が出来てくる予定になっており、そこが出来てくると多くの情報が出て来るのではないかとと思っている。

○（議会） 人を呼び込むという事では、当別町に取って最大の事業となるが、この12月議会の定例会では行政の方から途中経過があると思うが、現時点で私の方で掴んでいる情報としては、経営主体、運営主体というものの協議を、JA、当別町、商工会、金融協会が一体となって行っておりまして、年明け位までにどういう形になるのかの方向が出るのではないかと。現在は実施設計に移行しておりまして、建物の構造だとか、トイレの位置がどうだとか、トイレの数がどうだとか色々な形の事をやっている。併せて出店のお店に対するルール作りを、実際チャージがどれ位掛るのかが、基本設計から実施設計に至る段階で出てくる訳で、経費がどれ位かかるのかを、実際入る所にどういう金額で提示するのかは、多分年明け位には提示されてテナント事業者の募集内容、選考等が年明け以降に急速に行われるのではないかと。それ

と実際、2017年9月に完成して稼働しようと言う予定で準備されて、来年の雪解けから実施設計で着工して、再来年の遅くとも4月頃には外観が出来上がるとの事である。一つの情報として、再来年の9月に稼働する際に、スウェーデンレクサンド市との30周年をその場所で行うという計画で、先日町長もスウェーデンに行って、色々と打ち合わせをしてきている。道の駅の概要については、この12月に色んな内容が公表されてくると思うので、我々もそうだが町民の方が、一番興味を持っている事だと思う。行政としても年間45万人の入場者を見込んで、一人幾ら位だと言う事も算定している。今年5月に赤井川村に道の駅が出来て、昨年までの114ヶ所が今年1ヶ所出来て、いま道内は115ヶ所の道の駅があり、ニセコ、伊達、恵庭、深川、その辺の野菜の販売はやはり群を抜いており色んな方式があると思う。個人的には昨年半年を掛けて114ヶ所全てを回ってきて、色んな情報等があるので、事務局や関係者には、良い提案を出来るだけ言って行きたいと思っているし、やはりどこにも負けないものを作らないと、いくらバックに200万の札幌市民があると言っても来てくれないといけないので、お客さまを呼べる魅力あるものを、議員も町民の方の意見を聞いて、提案していきたいと思っている。

○（町民） 114ヶ所全て回ったとの事で敢えて聞きたいが、前年比が伸びている店舗の上位高い店舗のベスト10。前年比を割っているワースト5の店舗。前年比を超えている店舗の特性を5つ挙げて欲しいといたら即答できるのか。そして前年比を割っているワースト5の店はどういう要素で前年比を割るのか5つ挙げて欲しいと言ったら答えられるのか。

○（議会） 実際に回ってみて成功している所は、いま現在一番に人が多く入っているところは、望洋中山で公表200万人と言われている。

○（町民） 個別の件ではなく、そういう風に前年比をクリアしている共通的な要素は何なのか。

○（議会） 一番は実際組んで行っている形態が、第3セクターなり、町や観光協会、JA、商工会などでタッグをきっちり組んで、三位一体で行っている所が成功している例であり、やはり直売が主体となっており、大きな所では3億売っている、4億売っていると言う状況で、伊達が3億5千万円であった。いかに年中通して農産物を供給出来るかと言うチームワークであり、それと同時に冬の間、どういう形で供給出来るかであり、例えばハウス主体とするとか、あるいは当別町で考えているのは姉妹都市の特産品だとか、石狩市の魚を入れるとか色んな計画を話されており、そういう所が重要で、そういう所が道内ではうまく行っている所だと思う。

○（町民） ワーストの所はどういう所か。

○（議会） ワーストは地域的に道南、道北で、人が来ていないし、出展しているものも少なくスペースも狭く、それがうまくいっていない原因だと思う。オホーツクもそうだが、冬の間は殆ど客が来ない状況だと思う。ところがそれを乗り切っている、例えば、深川は冬の間は本州から商品を全部取り寄せている事や、伊達は非常に野菜を多く200種類位を販売するなど、いかにお客に喜ばれる事をやっている所がうま

くいつて、それが出来てない所が地域的にもうまくいつていないと思う。それと道の駅が出来てから20年経っており、道南、道北は小さいスペースでやっているの、何が入っているのかなとの感じを受ける。

○(町民) 今のような話をきちっと分析的に捉えて、やはり運営面の事が実は圧倒的に多いと、ハード面ではない事が今話を聞いても分かると思う。運営面でどうすべきなのかを、もう少しきちっと成功事例と失敗事例ときちっと分析をする時期だと思っており、特に補助金が入った建物は失敗事例としては絶対出したくないので、それは計画したり、人の話を聞いたりすればきちっと出てくるが、前年比を割っている店舗の特性は何かという事をもう少し深く分析しないと、そういうケースから最も深く学ぶべきだと思っている。それとあいの里から人を呼ぶと簡単に言うが、東光ストアやコープの品揃えを出来るかどうか本気で考えているのか、有り得ないと思う。東光ストアやコープに行っているあいの里の人が何で道の駅に買いにくのかとの素朴に疑問に思っている。1回や2回はイベントで来るかもしれないが、本気であいの里から人が買いに来るとは思えない。これは町民誰しもが思っている事であると思う。もう少しリスクを深く読み込んでいく事をいまやっていかないと、先行事例から失敗事例や成功事例から、しっかりと学んで、安直にあいの里から人が来るとは思わないでほしい。

○(議会) この提案は、議会が答弁する話ではないので、こういう心配を皆さんがしている事は伝えたいと思う。ただ、作ったから人が来てくれるとは町の方も思っていないと思うので、いま心配されているように最初から経営主体が黒字転換出来る様な早期の計画をどう作るかの視点を最初から持っているし、あるいはリピート率をどう上げていくかを最初から想定はしているが、ただ、それが出来るかどうかはやってみないと分からない部分がある。たしかに言われるように、コープのような色んな既存の商店の陳列されている品揃えと対抗出来るのかは、たしかにそうであるが、儲かっている道の駅はそれなりに人を呼んでいる訳であり、言われる通りそういう先進事例に学んで、皆さんが心配されている事を払拭出来て開業できる体制を如何に作っていくかを、いま町が一番悩んでいる所であり、議会としても皆さんが心配している事をしっかりと伝え、議会としてもチェックしながら提言するために、議会、議員個人も色んな所に視察をしながら、少しでもプラスになるように努力している最中である。

○(町民) 道の駅の開業後は、赤レンガやフィーカはどうなるのだろうか。道の駅は町内から遠くであり、どんどん高齢化になる中では車での買い物が難しくなり、そういう意味では、赤レンガ等は重要な場所であると思うので、十分検討していただきたい。町内の商店街を見ると年々減ってきており、高齢化や後継者が居ない状況であるので、検討してほしい。

○(議会) 赤レンガ、フィーカ、花ぼっけなどであるが、基本的には農協が道の駅の出店をどう位置づけるかという事が根本にある。赤レンガ等をその後どうするかについては大きな問題であり、いま農協と町が色んな意味で道の駅の出店について調整

しており、おそらくは農協は道の駅の出店の一年半前頃には生産計画を立てなければ出来ないと思うので、農協の担当者と町の企画の方と具体的にどうするかとの話は近々に入っていくのではないかと期待している。既存の商店街との関係についても、商工会の局長さんに議長としてお願いした事は、今後既存の商店街がどうなるのかが一番大きな問題であるので、その点について商工会としてどう対応できるのか、あるいは具体的な案を出す事、行政として出来る事などを含めて検討してほしいと要請して、先月の初めに商工会の中にそういう委員会が出来たという事を聞いている。道の駅は交流人口をまず増やして、その交流人口をいかに町の中に引きずり込むかという事も目的の一つであり、具体的に魅力ある商店街を作っておかなければ町に人は来てくれないので、そう言った視点で具体的な施策を考えて貰いたいとお願いをしている。幸いにもポイントカード会などがあり、そのポイントをどう有効活用するかを含めて検討してほしいとの話はしており、道の駅が出来て、既存の商店街が疲弊したと言うのは本末転倒になるので、そこはしっかり町と商工会で検討してほしいと思っている。もう一つ、企画課の方で検討しているのは、道の駅が出来た時には、今の市内循環したバスが道の駅まで行くように、そういう行程を作るとしており、市街地あるいは太美のお年寄りの方がバスに乗って、道の駅に買い物に行くとの交通手段を確保したいとの企画を立てているとの事である。また道の駅の計画書の中には道の駅で色々なイベントを行って商店街に人を回したいとの企画する計画もあり、今後商工会との協議の中でそういう事が纏まっていく事を期待している。

○（町民） 年を取ってくると、なるべく近くで買い物をしたいと思う。赤レンガ倉庫では音楽会とかショーを行っているが、道の駅ではそういう事をするかどうか聞きたい。除雪の事だが、除雪車が重たい雪を玄関先に置かれるので、それが一番困るので、もう少し綺麗に取っていくように伝えてほしい。

○（議会） 住んでいる近くで買い物したいと言うのは、皆さん同じであると思うので、道の駅に限らず、今の商店街の有り方を見直さなければならない時が必ず来ると思う。未来総研の統計で行くと、後25年すると当別の人口も1万1千人を切っていくとの推計であり、その推計が当たってしまうと高齢化率は50%超えると言われており、そうすると2人に1人は65歳以上のお年寄りであって、そういう地域社会が成り立つかどうかとの問題もあるが、そうしない為に町は総合戦略を作って努力しようとしているが、今の心配のように買い物は近くでしたいと言う前提の通り、足をどう確保するかを含めて、道の駅が出来ても赤レンガを機能分担して残すだとかは今後検討しなければならないと思う。道の駅でのイベント等の具体的な検討はされていないが、リピート率を上げる為には色々な販売商品を揃える部分と、目玉商品などを日替わりで置いていくとか、色々なイベントをやって人を呼び込む事をしなければならない。幸いにも今の計画の中には、イベントスペースもあり、色々なイベントを企画しながら人集めをする事はされていくと思う。公式ではないが、案としては、大きな花火大会を石狩川の河川敷で行ってはどうかとの話は、防災上の問題で色々難しいとは聞いているが、そういう事もどうだとの話もあると聞いている。とべのすけのキャ

ラクターを大々的にここで使ってアピールするとか、いわゆる道の駅はインフォメーション機能が主であるので、そこで当別の歴史ですとか、色んなものを紹介しながら歴史に纏わる色んなイベントをタイムリーに行って集客するですとかを今後、具体的な案が出て来ると思う。

○（町民） 立派な道の駅を作るとの事であるが、そこで生産者からの持ち込み手数料であるが、完全に黒字化する為には、ある程度手数料は取らないといけないと思うが、今のレンガ倉庫についても、かなり手数料は高いとの話もあり、どうしてもそういうものはある程度は取らなければならないと思うが、出来れば安く利用し易い価格にしてほしいと思う。

○（議会） 出店される方、あるいはテナントして入られる方については、そこが一番の関心事だと思うので、その辺もおそらく農協との協議の中で、今後具体的に決めて行っていただけるのかなとは思っている。ただ、今要望があったように生産者が出店し易くて管理がし易いような、そういうシステムをしっかりと作ってほしいと言う事は町の方に要望していきたいと思う。

○（議会） 先程の除排雪の話であるが、これから高齢化率が上がっていくと、ご高齢の方ですとか、社会的な弱者の方が増えていく、そういう地域社会になっていく。議会としてもその点については、今回人口ビジョンを当別町は纏めているが、その資料を参照にさせてもらって、それぞれの議員が色んな事を考えている。今年の除排雪については、先月末に入札を行って、他の自治体では除排雪をしてくれる業者が決まらないという事もあったが、当別については幸いにも決定して、今年の冬はいつ雪が降っても大丈夫なように、今から万全な体制が出来たと思っているが、ただ除排雪の仕方については、これまでとは変えていかなければならないと思っており、町長も議会の答弁の中でも、いわゆる高齢の方ですとか、社会的な弱者の方が玄関前に重たい雪を置いていかれても、お年寄りの方にそれを除雪すれ、排雪すれとは無理だと思うので、少々お金が掛っても、なるべく皆さんに負担を掛けないような除排雪の仕方を協議会の方で考えていただくという事がこれからは必須だろうと思う。それにはお金も掛るので、町として除排雪費用を委託契約する時に、何と言うか真心除雪のような感じでちょっと配慮をした形で除雪してくださいと、ちょっと時間も掛かりますけども、その分は上乘せしますよと言う事も今後検討する必要もあると思う。今回、総合戦略の中で色んなプロジェクトが決められているが、特に今回国に出す中では、KPIと言って、何年後かにどういう目標を達成するという事を具体的に書かなければならないもので、今回除雪費についても国に提出した中では、町民一人当たりの除排雪費用が、いま2万2千円であるが、それを2万4千2百円にする、2千2百円増額するとの目標を立てて国に提出したところである。それで今よりは除排雪費用を手当てすると言う事で町の方は動き始めたので、降る量にも寄るけれども、社会的な環境とか、そこに住んでいる方の環境が変わってきたので、それに対応するような、易しい除排雪の仕方と言うか、やっぱり当別は冬は雪が多いけれども、除排雪がしっかりしているから、当別にこのまま住みたいと思えるような除排雪の体制を作るように議会

としてもお願いしていきたいと思っている。それには、業者の理解と協力が不可欠であるし、住民の皆さんからの協力も得ないと出来ない事なので、そう言った意味では今後、協議会を作って、そこで具体的にどうするかを話し合いたいという事を、町長もたしか3月の答弁でも言っていたと思いますので、それは町の方としてもするという覚悟は持っていると思いますので、今回そういう話が出ましたので、改めて議会の方からも建設の方に意を申しておきたいと思っています。

○（町民） 11月6日の道新の記事を見ますと、当別町の国の地方創生に基づき、人口減少対策として、2040年に人口目標を2万人として示している。まち・ひと・しごと創生総合戦略では町は4つの基本目標を挙げている訳だが、石狩市の数字は現実的かなと思うが、今1万7千人しかいない町が、2040年までにそれだけ達成させる事が出来るのかは、可能性は有るのかもしれないが非常に疑問である。

○（議会） 総合戦略では、4本の柱のプロジェクトを作って人口減少や少子化に対してどうやっていくかを具体的に数値目標KPIを立てて作られている。後25年後に2万人を想定しているが、その数字が多いのか少ないのかは実際には、ここに書かれてプロジェクトをどう皆さんと一緒に進めていくかとの事に掛っていると思う。今回提出した総合戦略を基本として3年間のより具体的な計画を立てるなど他の自治体よりもどんどん先行して行っているの、国の予算も入ってくる、当別町としても事業を真剣にやらなければならないと言う意味からは、この2万人という数字は絵に描いた餅にはならないんじゃないかと期待している。この総合戦略に書かれている色んな事が住民の皆様理解を得て、あるいは国の交付金をいただく中で、一生懸命にやっていく事が出来て、尚且つ当別の魅力を作って、当別に住みたいと言う人が多くなって行けば、人口減少を止めて2万人を目指すという事は可能じゃないかなと期待している。皆さんと供に、当別のこの町を守っていく為には、必死でやっていかなければならないと思っています。

○（町民） 雪対策協議会の事だが、一人当たり2,800円の雪対策費を徴収されている。白樺町は60世帯で、去年までの月額町内会費は1,300円で、多分一番高い町内会費を納めていると思う。この中で、この2,800円は非常に大きな負担になっている。いま月額は色んなやり繰りで1,200円に何とか100円下げたが、それでも負担が大きい。これは平成18年にこの制度がスタートした聞いているが10年経っており、当時は町財政が非常に厳しい事からこの協議会がスタートしたと思うが、色んな変化があり、少しずつは改善されている事もあると思うが、これは特定の町内会で協議会が作られており、全町をカバーしていない。加えて集まるお金は1千2百万円で、このお金を集めるために、色んな会議を招集したり、色んな路線変更を行ったりして、この制度を守ろうとしているのだが、この制度はそろそろ1回白紙に戻して、本当に雪対策協議会がどう有るべきかの議論をもう一度再スタートする時期に来ているのではないかと思う。議会の方をお願いしたいのは、雪対策協議会の有り方を、もう一度今一度議論し直してゼロからスタートし直していただきたいと言う要望をお伝えしたいと思う。このまま毎年毎年議論を積み重ねていく事ではなく、

一度ゼロスタートして、ご承知の通り町内会というのは70%の組織率な訳で、ある意味色んな不公平が発生しており、この制度をこのまま押し進めていくと、その不公平感はますます広がっていく可能性もあるので、一度、根本的な見直しをしていただきたいとのお願いである。

○（議会） そういう話があった事は伝えたい。ただ基本的に町内会は自治組織であって、その集合体として目的を持って設立された協議会であると思っている。雪対策協議会の設立された経緯としては、町内会の連合会が町の方に要望を出したとかの経緯もあり、そこは手続き上の事もあり、議会が町内会に手を突っ込むという事は出来ないが、議会としては、除雪のあり方ですとか、町民の負担ですとかは、そういった事については、今後十分に議論をしたいと思っている。

○（町民） 希望があった事は正確に伝えていただきたい。加えて協議会というのは連合協議会ではなく、連合協議会は当別には無い。個々、単体の町内会が独立している状況である。任意団体だとの話をされたが、先程来、地域社会だ、コミュニティーだ、助け合いだ、住民自治だと言っている一番小さい単位が実は町内会である。町内会の機能を役場は実に巧妙に使い分けをしている。この町内会区分をしたのが役場であるが、30世帯しかない所と、400、500を超える世帯があつて、しかも町内会費は、各町内会バラバラで、当別町内に住む事によって、不公平感が現実生まれている。でも町内会をきちっと機能させるように、役場は当別に入ってきた時に町内会をきちっとアピールして、町内会の加入率を上げれる努力は非常に乏しいと思っている。町内会の機能をさせようと思えば、それは町の発展と町内会が機能するという事は多分同じ目的に向かっている筈である。であれば、町内会連合会をきちっと作って町内会の単体の町内会の情報を共有して、良い事例は共有する、困難な所は町内会連合会として町に言葉を伝えて行くとして、一つ一つの町内会が一つ一つの個別課題を挙げて伝えても、中々伝わらない事が沢山ある。もうそろそろ町内会連合会をきちっと作って横断的な情報提供をする、情報共有するという事を、議員さんも理解されて町内会活動の深い部分を理解していただいて、そこに促進するために町内会連合会を作るという事を、声を挙げていただきたいと願っている。

○（議会） 言葉足りなかったかもしれないが、協議会だと言ったのは連合の協議会との事ではなくて、除排雪を目的とした協議会を作られて、町と議会の方に最初に要望された訳である。それでパートナーシップという事もあつて、負担を一応するのでとの話があつたとの経緯である。一部の町内会しか負担していないとかは、過去に色んな議論はあつたが、それは過去に決定してきた事であり、その辺も含めて今回言われた事は、きちっと役場の建設課には伝えていく事したい。

◎後藤議長挨拶

○今日は色んな話をさせていただいて、今までの報告会で一番良かったと思っています。参加していただいた方にも、それなりにそうだったのかと分かったいただけのかと思っています。私共はこういう場を通じて、皆様より色んな意見をいただいと

思っていますし、議員としては平素、日常、皆さんの色々な考えを聞きたいと思っています。最近は努めて、殆どの議員が議会事務局の方に週に3回、4回と来ているので、何か色々な要望ですとか意見があれば、議会事務局に言っていただければ、いつでも話をする事もできますので、その点もお願いをさせていただきたいと思っています。特に今日は人数が少なかったのですが、色々なご意見をいただく事が出来て、議会としても本当に有意義だったと思っています。今日、いただいた皆様からのご意見、要望については、しっかりと行政の方へお伝えする中で、議会として何が出来るかという視点で、今後、議会の中で反映をさせていきたいと思っていますので、どうぞこれからも議会に対して色々なご意見を賜りますよう、お願い申し上げまして本日の報告会を終わらせていただきたいと思います。